

自然を大事に 人にやさしい ふれあいのある元気な町

湯沢町ファミリー健康プラン

湯沢町歯科保健計画 最終評価報告書兼

第2次湯沢町歯科保健計画 計画書

計画期間(2023年度～2032年度)

～何でもおいしく食べられ、キラリと光る笑顔～



令和5年3月

湯沢町

目 次

<u>湯沢町歯科保健計画最終評価報告書</u>	2
歯科保健計画推進に向けての指針	3
各ライフステージの指標および数値の変化	4
策定時から最終評価までの取り組み	6
各ライフステージの評価、背景・原因、今後の方針	1 2
<u>第2次湯沢町歯科保健計画計画書</u>	1 7
『湯沢町歯科保健計画』の位置づけ	1 8
歯科保健対策推進における基本理念及び推進の柱	1 9
各ライフステージの目標、取り組み、指標と目標値	2 0
歯科保健計画推進に関わる機関・組織・団体	2 7
湯沢町歯科保健計画策定の経過及び委員名簿	2 8

湯沢町歯科保健計画 最終評価報告書

『湯沢町歯科保健計画最終評価』について

平成25年3月に、「何でもおいしく食べられ、キラリと光る笑顔」を目指して、湯沢町の歯科口腔保健を総合的に推進していくために「湯沢町歯科保健計画」を作成し、各ライフステージに沿った行動目標と指標を示しました。平成29年度には中間評価を実施し、目標達成に向けて取り組みを強化してきました。

令和4年度、第2次湯沢町ファミリー健康プラン最終評価に合わせて、湯沢町歯科保健計画も最終評価を行い、次期プラン策定に向けて方向性を示します。

歯科保健計画推進に向けての指針

年をとっても自分の歯が20本あれば、ほとんどの食べ物がおいしく食べられたり、人と話すなどの楽しみも持ち続けられ、病気を予防できたり、元気よくからだを動かすこともできます。

歯科保健計画ではライフステージを6つに区切り、それぞれのライフステージごとに行動目標を掲げてスローガン達成のために取り組みを推進してきました。ライフステージごとに取り組みを評価し方向性を示しました。

湯沢町ファミリー健康プラン メインスローガン

自然を大事に人にやさしいふれあいのある元気な町

歯科保健計画スローガン

何でもおいしく食べられ、キラリと光る笑顔



各ライフステージの指標および数値の変化

：目標達成

赤字：策定時から10%以上改善
青字：策定時から10%以上悪化

ライフステージ	指標	策定時	中間	最終	根拠	目標値
Ⅰ 乳幼児期 (0～5歳)	むし歯のある子どもの割合(3歳)	20.8	12	7.5	母子保健事業報告	10
	むし歯のある子どもの割合(5歳)	32.8	31.1	22.9	県歯科疾患実態調査	30
	5歳児の一人平均むし歯本数(策定時のみ) ※1本以下	1.33	1.36	1.31		1
	毎日(回)仕上げ磨きをする保護者の割合(3歳)	88.8	88.6	97	保健衛生	90
	1歳半でおやつの内容が良好の子	81.6	80.4	87.0		90
	フッ化物塗布率(1歳)	100	95.7	100		100
	フッ化物洗口実施率(保育園)	100	93.2	97.6		100
	2歳児で3食バランスよく食べる子の割合	67.4	59.2	77.5		90
	3歳児でよく噛んで食べる子の割合	88.2	82	85.0		90
	3歳児でおやつの回数が1日3回以上の子の割合	9.8	11	0		0
Ⅱ 学童・思春期 (6～18歳)	歯間清掃用具を使っている割合(学童)	45	37.5	58.7		ファミ健アンケート
	歯間清掃用具を使っている割合(思春期)	34	43.2	42.0	40	
	朝食後の歯みがきをしている人の割合(学童)	95	73.2	80.4	100	
	朝食後の歯みがきをしている人の割合(思春期)	84.4	86.5	79.6	100	
	昼食後の歯みがきをしている人の割合(学童)	93.3	80.4	80.4	100	
	昼食後の歯みがきをしている人の割合(思春期)	33	76.4	69.9	50	
	夕食後の歯みがきをしている人の割合(学童) ※参考指標	30	37.5	37.0		
	夕食後の歯みがきをしている人の割合(思春期) ※参考指標	28.8	39.3	31.9		
	寝る前の歯みがきをしている人の割合(学童)	71.3	67.9	60.9	100	
	寝る前の歯みがきをしている人の割合(思春期)	73.8	63.8	57.1	100	
	仕上げ磨きを行っている親の割合(小学校低学年)	61.4	75.7	71.0	保健衛生	80
	むし歯罹患率(12歳) ※10未満	11.4	13	22.5	県歯科疾患実態調査	10
	一人平均むし歯本数(12歳)	0.18	0.17	0.40		0

Ⅲ 妊産婦	妊婦歯科健診を受ける人の割合	33.9	50	29.7	保健衛生	37.3
	産後4ヶ月時の歯間清掃用具の使用割合	20	50	64.0		40
	産後4ヶ月時の鏡を使って歯や歯ぐきの状態を観察する人の割合	52.5	50	77.0		60
	産後10ヶ月時の定期的に歯科受診をする人の割合 ※中間評価は産後1年	6.1	8	13.0		10
(19~64歳) Ⅳ 青壮年期	年に1回は歯科健診を受ける人の割合	32.5	40	35.2	ファミ健アンケート	35.8
	歯間清掃用具を使っている人の割合	51.1	52.1	61.9		56.2
	夕食後の歯みがきをしている人の割合(中間のみ)	25.3	24	24.8		100
	寝る前の歯みがきをしている人の割合(中間のみ)	60.3	66.5	66		5
	就寝前に歯みがきをする人の割合(夕食後磨いたら食べない)(策定時のみ)	60.3	〃	〃		5
	女性の喫煙率	8	7.6	7.1	5	
	成人歯科健診券を利用する人の割合	8.1	7.4	13.6	保健衛生	30
Ⅴ 高齢期 (65歳)	1年に1回、歯科健診を受けている割合	43.4	43.7	38.6	ファミ健アンケート	47.7
	歯間清掃用具を使っている割合	45.4	51.5	56.2		50
	80歳で自分の歯が20本ある人の割合		33.4	—		25
	口腔体操を実施している介護予防教室の数※策定時目標25		3	4	保健衛生	6
Ⅵ 要介護者・障がい者等	定期的に歯科健診を受けている人の割合(策定時のみ)	—		16	R3実態調査	20
	定期的に口腔ケアをしている人の割合(策定時のみ)	—		76		20
	お口の体操をしている人の割合(策定時のみ)	—		47		40
	新潟県無料訪問歯科健診の利用件数(中間のみ)		0	0	聞き取り	5
	南魚沼歯科医師会在宅歯科医療連携室の利用件数(中間のみ)		0	0		5
	スタッフ対象の研修会実施施設数(中間のみ)		2	5	事業実施報告書	4

策定時から最終評価までの取り組み

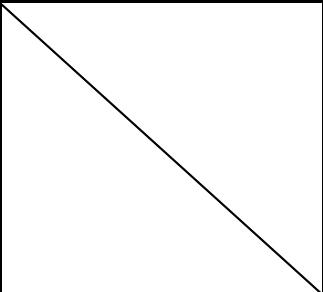
I 乳幼児期（0～5歳）

	教育・啓発	歯科健診	フッ化物塗布・洗口
6ヶ月児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯みがきの準備指導（ガーゼや綿棒での口腔清拭の体験指導）（集団） →R2感染症流行のため10ヶ月での個別指導へ変更 	無	/
10ヶ月児	<ul style="list-style-type: none"> ・ R2～歯科衛生士による歯みがきの準備指導（個別） 	無	/
1歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医師講話（むし歯予防について、フッ化物について、寝かせ磨き体験指導）→R2年度より感染症流行のため中止 ・ 歯科衛生士によるブラッシングの個別指導 ・ 健診でむし歯のあった子に歯科衛生士による個別ブラッシング指導 →R2感染症流行のため中止 	有 （集団：1歳児 歯科健診）	フッ化物塗布・サホライド塗布 健診でむし歯のあった子へのフッ化物塗布券の発行
1歳6ヶ月児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生士によるブラッシング指導（むし歯の原因と予防方法）（個別） ・ 健診でむし歯のあった子に歯科衛生士による個別ブラッシング指導 →R2感染症流行のため中止 	有 （集団：1歳6ヶ月児健診）	フッ化物塗布・サホライド塗布 健診でむし歯のあった子へのフッ化物塗布券の発行
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生士による指導（甘味制限に関する講話、染出しによる実技指導）（集団）および個別でのブラッシング指導 →R2年度より感染症対策のため個別指導のみを実施。 ・ 健診でむし歯のあった子に歯科衛生士による個別ブラッシング指導 →R2感染症流行のため中止 	有 （集団：2歳児 歯科健診）	フッ化物塗布・サホライド塗布 健診でむし歯のあった子へのフッ化物塗布券の発行

2歳6ヶ月児		無	フッ化物塗布券の発行
3歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士による集団指導（講話、仕上げ磨き体験指導）および個別でのブラッシング指導 →R2年度より感染症対策のため歯科衛生士によるブラッシング個別指導のみ実施 ・親と子の良い歯のコンクールへの応募→R2～中止 ・健診でむし歯が無かった子をむし歯0のお友達として広報に掲載 ・健診でむし歯のあった子に歯科衛生士による個別ブラッシング指導 →R2感染症流行のため中止 	有 (集団：3歳児健診)	フッ化物塗布・サホライド塗布 健診でむし歯のあった子へのフッ化物塗布券の発行
年少児	<p>【3歳児親子歯みがき教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師による講話（むし歯予防） ・歯科衛生士によるブラッシング指導（自分磨き・仕上げ磨きの方法、虫歯治療の大切さについて） →R2～感染症流行のため中止 <p>【こども園 ブラッシング指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春と秋（年2回）に歯科衛生士によるブラッシング指導→R2～感染症流行のため中止 	有 (集団：春と秋の年2回実施) →R2～感染症流行のため秋の歯科健診を中止	歯科健診、フッ化物塗布・サホライド塗布
年中	<p>【こども園 ブラッシング指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春と秋（年2回）に歯科衛生士によるブラッシング指導→R2～感染症流行のため中止 	有 (集団：春と秋の年2回実施) →R2～感染症流行のため秋の歯科健診を中止	フッ化物洗口（R2、3、4感染症流行のため一時中止期間有）

年長児	<p>【年長児親子歯みがき教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士による講話（6歳臼歯とむし歯予防、混合歯列期、むし歯の原因、適切な歯ブラシの選択について） ・染出し液を使用した実技指導 <p>→R2～感染症流行のため中止</p> <p>【こども園 ブラッシング指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・春と秋（年2回）に歯科衛生士によるブラッシング指導 <p>→R2～感染症流行のため中止</p> <p>【6歳臼歯むし歯予防教室】（R3～）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士による講話（上記教室と同様） 	<p>有</p> <p>（集団：春と秋の年2回実施）</p> <p>→R2～感染症流行のため秋の歯科健診を中止</p>	<p>フッ化物洗口（R2、3、4感染症流行のため一時中止期間有）</p>
-----	---	---	--------------------------------------

II 学童・思春期（6～18歳）

	教育・啓発	歯科健診	フッ化物塗布・洗口
小2	<p>【むし歯予防教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士による講話（むし歯の原因・予防、6歳臼歯、仕上げ磨きの必要性について） ・染出し液を使用した実施指導 	<p>有</p> <p>（集団：春と秋の年2回実施）</p> <p>→R2～感染症流行のため秋の歯科健診を中止</p>	
小5	<p>【むし歯・歯周病予防教室】（R3～新規事業）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士による講話（むし歯・歯周病の原因・予防、汚れの落ちにくい場所、フロスの使い方について） ・染出し液を使用した実施指導（歯ブラシ、フロス） 		

中2	<p>【むし歯・歯周病予防教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯科衛生士による講話（歯周炎・むし歯の原因、汚れの落ちにくい場所、フロスの使い方について） ・染出し液を使用した実施指導（歯ブラシ、フロス） 	<p>有 （集団：春と秋の年2回実施） →R2～感染症流行のため秋の歯科健診を中止</p>	
小1～中3	<ul style="list-style-type: none"> ・保健便り、給食後の歯みがき 		<p>フッ化物洗口（R2、3、4年度、感染症流行のため一時中止期間有）</p>

Ⅲ 妊産婦

	教育・啓発	歯科健診	フッ化物塗布・洗口
妊婦	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付時にパンフレットを用いた受診勧奨（妊娠中の口腔トラブル、歯周病菌による胎児への影響） 	<p>有 （個別：妊婦歯科健診）</p>	
産婦	<ul style="list-style-type: none"> ・6ヶ月健診時に歯科衛生士による染出し液を使用したブラッシング指導を実施（集団指導） →R2～ 4ヶ月健診に変更し個別指導。感染症流行のため染出しは中止 	<p>無</p>	

Ⅳ 青壮年期(19～64歳)

教育・啓発	歯科健診	フッ化物塗布・洗口
<ul style="list-style-type: none"> ・H29特定健診の会場における咀嚼力判定試験と唾液潜血試験(74歳以下)。結果返却の際に受診勧奨、リーフレットを配布 	<p>有 （個別：40、50、60歳歯科健診）</p>	

・H25～H28母子保健推進協議会、食生活改善推進協議会、介護予防事業のスタッフ、栄養教室参加者等の住民を対象に健口づくり担い手育成事業を実施	無	
・母子健康手帳交付時に喫煙している女性へ妊娠とタバコに関するリーフレットを配布	無	
・赤ちゃん訪問、乳幼児健診での禁煙継続指導	無	
・新成人に対し若年女性の喫煙対策のリーフレットを配布	無	

V 高齢期（65歳～）

教育・啓発	歯科健診	フッ化物塗布・洗口
・H29特定健診の会場における咀嚼力判定試験と唾液潜血試験(74歳以下)を実施。結果により受診勧奨、リーフレットを配布	無	
・H25～H28母子保健推進協議会、食生活改善推進協議会、介護予防事業のスタッフ、栄養教室参加者等の住民を対象に健口づくり担い手育成事業を実施。	無	
・いきいき人生よい歯コンクール→R2～中止中	無	
・介護予防事業や高齢者の集いの場等の参加者に対し、歯科衛生士による個別指導（R3～新規事業一体化事業）	有 （個別：70歳 歯科健診）	

VI 要介護者・障がい者等

教育・啓発	歯科健診	フッ化物塗布・洗口
<ul style="list-style-type: none"> ・ R3要介護者の口腔アンケートを実施。R4地域ケア会議内にて湯沢病院歯科医による研修会を実施。 	無	

VII その他

教育・啓発	歯科健診	フッ化物塗布・洗口
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広報の掲載、ポスターの掲示 歯の健康習慣（6月4日～10日）、健口文化推進月間（11月） 	無	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあい福祉健康フェスティバルの歯科コーナーにて、歯科衛生士による個別相談や歯科に関する情報を発信 	無	

各ライフステージの評価、背景・原因、今後の方針

I 乳幼児期（0～5歳）

目標：むし歯のない子どもを増やそう

行動目標：甘味の適正摂取を心がけ、食べたらみがくを実践し、
歯垢の取れる歯みがきを行う

評価	番号	項目
目標達成	1	むし歯のある子どもの割合(3歳)
目標達成	2	むし歯のある子どもの割合(5歳)
目標達成	3	毎日(回)仕上げ磨きをする保護者の割合(3歳)
目標達成	4	フッ化物塗布率(1歳)
目標達成	5	3歳児でおやつ回数が1日3回以上の子の割合
改善	6	5歳児の一人平均むし歯本数(策定時のみ)※1本以下
改善	7	1歳半でおやつの内容が良好の子
改善	8	2歳児で3食バランスよく食べる子の割合
悪化	9	フッ化物洗口実施率(保育園)
悪化	10	3歳児でよく噛んで食べる子の割合

対象番号	背景・原因
1～8	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診でのフッ化物塗布、個別でのブラッシング指導・フロス利用の勧め、むし歯のある子へのブラッシング指導およびフッ化物塗布券の発行による成果 ・乳幼児健診での個別の栄養指導の成果 ・入園率の増加による影響(正しい生活リズムを獲得)
9～10	<ul style="list-style-type: none"> ・よく噛んで食べる子は策定時より減少しているが、中間評価から改善が見られたのは栄養士による個別指導による成果および入園率の増加による影響(園での栄養指導)が予想される ・フッ化物を希望しない親が増加。理由：調べたらいいものでは無さそう、効果が目に見えてわからない、現時点ではむし歯が無く困っていることもない ・10ヶ月児健診で衛生士から親にフッ化物の安全性・必要性について指導を入れているが、R2より歯科医師による説明(集団指導)をしなくなったことも影響していると考えられる ・指標にはないが、1歳6ヶ月児のむし歯罹患率は策定時0%であったがR3で2.17%に増加している。また、H24～R3のフッ化物塗布率は1歳で95.3%、1歳6ヶ月児で97.3%まで増加するがその後低下し3歳では95.8%となっている

今後の方針

- ・事業の継続
- ・個別でのブラッシング指導を継続 仕上げ磨きはしているが、不適切な磨き方が多いため、個別でのブラッシング指導を継続することで、子どものむし歯罹患率のさらなる改善が期待される
- ・新年中児へ安全性、必要性を示したパンフレットの配布を継続
- ・10ヶ月児健診での歯科衛生士からの指導を継続
- ・1歳児歯科健診での歯科医師からの安全性、必要性の講話により1歳児のフッ化物塗布率を増加することで、1歳6ヶ月児のむし歯罹患率低下が期待される

II 学童・思春期（6～18歳）

目標：むし歯・歯肉炎をつくらないようにしよう

行動目標：歯垢のとれるブラッシング方法を身につけて、習慣化する

評価	番号	項目
目標達成	11	歯間清掃用具を使っている割合（学童）
目標達成	12	歯間清掃用具を使っている割合（思春期）
目標達成	13	昼食後の歯みがきをしている人の割合（思春期）
改善	14	仕上げ磨きを行っている親の割合（小学校低学年）
悪化	15	朝食後の歯みがきをしている人の割合（学童）
悪化	16	朝食後の歯みがきをしている人の割合（思春期）
悪化	17	昼食後の歯みがきをしている人の割合（学童）
悪化	18	寝る前の歯みがきをしている人の割合（学童）
悪化	19	寝る前の歯みがきをしている人の割合（思春期）
悪化	20	むし歯罹患率（12歳）※10未満
悪化	21	一人平均むし歯本数（12歳）

対象番号	背景・原因
11～14	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科衛生士による小2、小5、中2への歯みがき教室での歯間清掃用具に関する指導の成果 ・ 親の歯間清掃用具使用率の増加に伴って子どもの使用率も増加した可能性がある ・ 広報等での歯間清掃用具の必要性、使用方法の周知の成果 ・ 乳幼児健診での個別のブラッシング指導、こども園でのブラッシング指導、就学児健診時のむし歯予防教室、小学校低学年（2年生）での仕上げ磨きに関する指導による成果
15～21	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人当たりの平均むし歯本数の増加は歯みがき実施率（朝・昼・夜）の低下による影響 ・ 年2回実施していた歯科健診を感染症の流行により秋の歯科健診を中止したことがむし歯罹患率に影響していると考えられる ・ 専門職による指導は、一定期間の繰り返しで習慣化を促し、知識や意識の定着につながっている。就学前は半年～1年に1回指導を受けているが、就学後は小2から中2まで期間が開いている

今後の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業を継続。特に小・中学校での年2回の歯科健診の早期再開が必要 ・ R3年度から開始した5年生でブラッシング教室を継続することでむし歯、歯周病予防が期待できる

Ⅲ 妊産婦

目標：生まれてくる子どもの歯をむし歯から守ろう

行動目標：家族と一緒に口のお口の健康を守る

評価	番号	項目
目標達成	22	産後4ヶ月時の歯間清掃用具の使用割合
目標達成	23	産後4ヶ月時の鏡を使って歯や歯ぐきの状態を観察する人の割合
目標達成	24	産後10ヶ月時の定期的に歯科受診をする人の割合（中間評価は産後1年）
悪化	25	妊婦歯科健診を受ける人の割合

対象番号	背景・原因
22～24	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児健診時の個別の産婦ブラッシング指導による成果 ・妊婦歯科健診受診時の指導による成果 ・広報等での情報発信の成果
25	<ul style="list-style-type: none"> ・未受診の理由：体調不良（入院含む）、仕事で、忘れてた

今後の方針	
・事業の継続	・忘れていた人に対して、再度歯科健診の受診勧奨が必要

Ⅳ 青壮年期(19～64歳)

目標：自分の歯を守り、むし歯・歯周病を減らそう

行動目標：口腔に関心を持ち、歯科健診を受け、口腔ケアの技を身につける

評価	番号	項目
目標達成	27	歯間清掃用具を使っている人の割合（青壮年期）
目標達成	28	寝る前の歯みがきをしている人の割合（中間のみ）（青壮年期）
目標達成	26	年に1回は歯科健診を受ける人の割合（青壮年期）
改善	29	女性の喫煙率（青壮年期）
悪化	30	成人歯科健診券を利用する人の割合
悪化	31	夕食後の歯みがきをしている人の割合（中間のみ）（青壮年期）

対象番号	背景・原因
36～29	<ul style="list-style-type: none"> ・TVCMや広報等での情報発信による成果 ・健口づくり担い手育成事業（H25～H28）にて研修を受けた担い手から住民への知識の普及による効果 ・小6、中3への喫煙予防教室の家庭への波及効果、母子健康手帳交付時や乳幼児健診での母親への禁煙指導による成果
30～31	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の歯科健診受診も可能としたが、R3の総受診者に占める土曜日の受診者の割合は12%と多くない ・歯みがきをするタイミングが夕食後ではなく寝る前である割合が増えた理由は不明

今後の方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・受診のしやすさよりも受診意識を高める取り組みを検討 ・事業（喫煙予防教室・母親への禁煙指導）を継続 ・広報等で食べた磨く歯みがき習慣の周知が必要 	

V 高齢期（65歳～）

目標：自分の歯を残し、おいしく食べよう

行動目標：定期的に歯（口腔）をチェックし、口腔ケアを続ける

評価	番号	項目
目標達成	32	歯間清掃用具を使っている割合（高齢期）
悪化	33	1年に1回、歯科健診を受けている割合（高齢期）
評価不可	34	80歳で自分の歯が20本ある人の割合
評価不可	35	口腔体操を実施している介護予防教室の数※策定時目標25

対象番号	背景・原因
32	・TVCMや広報等での情報発信による成果
33	・土曜日の歯科健診受診も可能としたが、R3の総受診者に占める土曜日の受診者の割合は12%と多くない
34～35	・H28国が実施した8020運動に関する調査では、80歳で20本以上の歯を有する人は51.2%と推計され、国は2022年の目標を60%と定めている。R3要介護者を対象に町で実施したアンケートでは入れ歯（部分または総入れ歯）の利用率が約80%と高くファミ健の高齢期を対象としたアンケートでは総入れ歯の割合だけで10.1%であるため、20本以上ある80歳の割合は国と比較しても低いと考えられる

今後の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続 ・受診のしやすさよりも受診意識を高める取り組みを検討 ・後期高齢者（特に80歳）の歯科健診の実施を検討

VI 要介護者・障がい者等

目標：口の中をきれいに保とう

行動目標：口腔ケアに関心を持つ

評価	番号	項目
目標達成	36	スタッフ対象の研修会実施施設数（中間のみ）
評価不可	37	定期的に歯科健診を受けている人の割合（策定時のみ）
評価不可	38	定期的に口腔ケアをしている人の割合（策定時のみ）
評価不可	39	お口の体操をしている人の割合（策定時のみ）
評価不可	40	新潟県無料訪問歯科健診の利用件数（中間のみ）
評価不可	41	南魚沼歯科医師会在宅歯科医療連携室の利用件数（中間のみ）

対象番号	背景・原因
36～41	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度、アンケートにより要介護者及び介護者の口腔ケアに関する実態を把握することができた ・約9割の要介護者が毎日または時々口腔ケアをしている →R元年に新潟県歯科医師会が県内の介護サービス事業所、施設を対象に実施したアンケートにて、口腔ケアを「常にしている」または「概ねしている」と回答した割合は、入所型施設で96.6%、通所型施設で91.7%、訪問型施設で76.5%であり、町の実施率は県と比べて差はないと言える ・要介護者等の口腔状態が良くないと答えた介護者が3割程度いる ・介護者による口腔ケアは毎日が26%、時々が15%、行っていないが57%の状況にある ・R3年度、全国の死因の第6位が誤嚥性肺炎であり、お口の体操は約半数が実施している →R元年に厚生労働省が全国の介護老人福祉施設および介護老人保健施設を対象に実施したアンケートでは、頬・唾液腺マッサージや口腔体操を実施している割合は、介護老人福祉施設で54.4%、介護老人保健施設で64.5%であり、町の実施率は全国に比べ低値である

今後の方針
<ul style="list-style-type: none"> ・介護者が口腔ケアの大切さを認識し、口腔ケアに参加するようになれば、要介護者の口腔状態の改善が期待される ・要介護者や介護者の口腔ケアに対する知識・手技を向上させるためには、ケアマネージャー等の周囲の支援者からの普及啓発が重要 ・令和5年度地域ケア会議にて支援者へ歯科衛生士による研修の機会をつくる

第2次湯沢町歯科保健計画 計画書



計画期間（2023年度～2032年度）

『湯沢町歯科保健計画』の位置づけ

1 計画策定の主旨

国は、総合的に歯科口腔保健を推進し、口腔保健の向上に寄与することを目的に「歯科口腔保健の推進に関する法律」を制定しています。

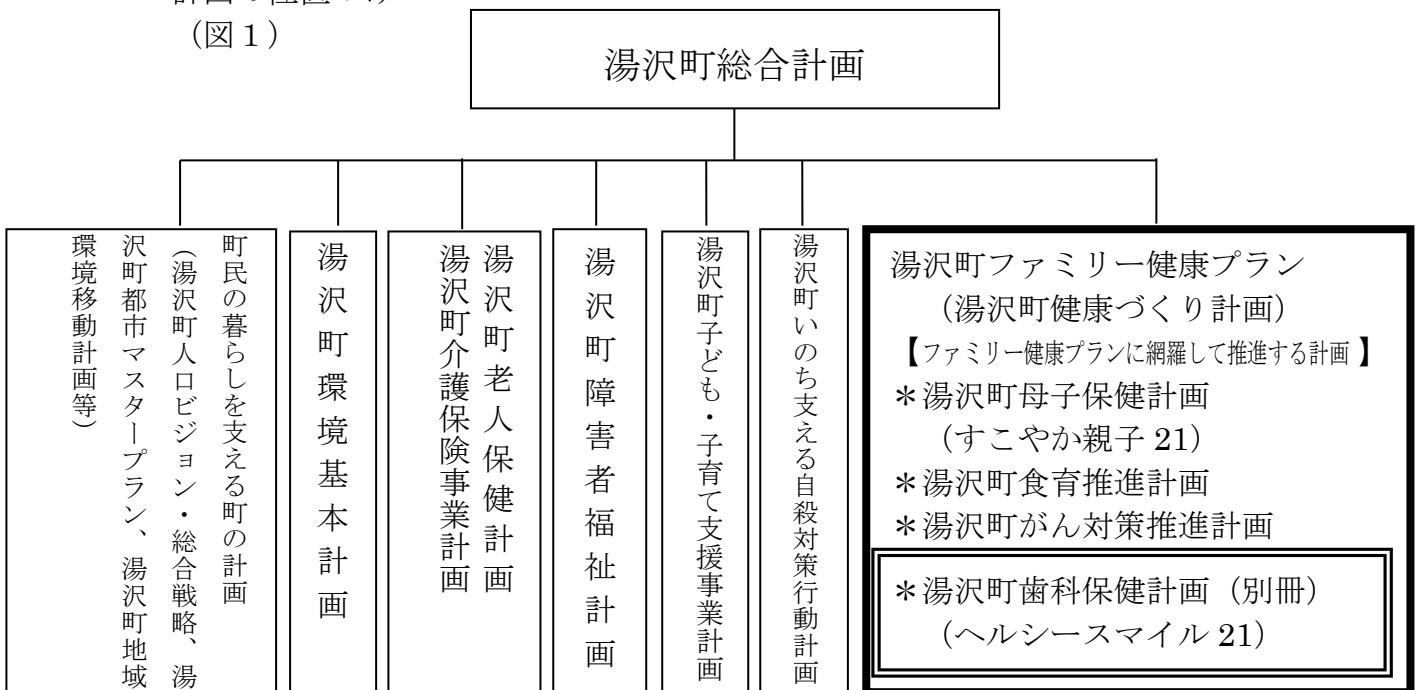
新潟県では、国の法律を受けて「歯科保健推進条例」の一部が改正され、生涯にわたって歯・口腔疾患の予防に向けた取り組みが促進されることが盛り込まれました。

この度、「何でもおいしく食べられ、キラリと光る笑顔」を目指して、湯沢町の歯科口腔保健を総合的に推進していくために「湯沢町歯科保健計画」を作成し、各ライフステージに沿った行動目標と指標を示しています。

2 計画の名称と位置づけ

「湯沢町歯科保健計画」は「湯沢町ファミリー健康プラン」の部門別計画として一体のものであり、湯沢町の歯科口腔保健を推進していくための基本計画です。

計画の位置づけ
(図1)

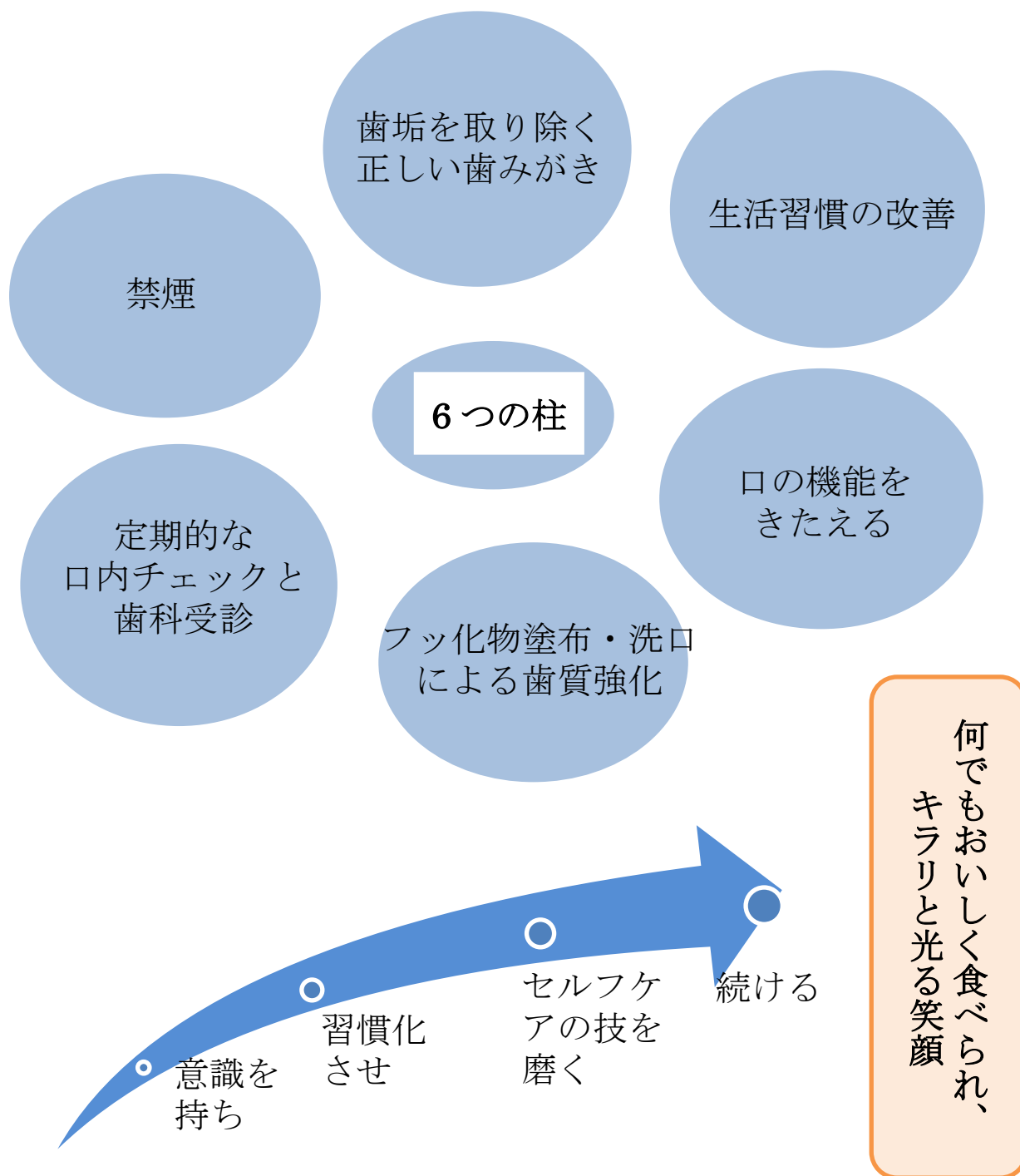


3 計画の策定期間

2023年から2032年までとします。

歯科保健計画推進における基本理念及び推進の柱

第1次歯科保健計画では、①正しい歯みがき②食生活改善・ストレス解消③定期的な歯科口腔チェック④禁煙⑤フッ化物塗布・洗口を推進の柱として取り組んでまいりました。第2次歯科保健計画では、以下の6つを推進の柱とし、乳幼児期から意識をもたせ、学齢期で習慣化させ、成人期においてはセルフケアの技を磨き、生涯を通じた取り組みを展開していきます。



各ライフステージの歯科保健の目標、取り組み

1 ライフステージ 乳幼児期（0歳～5歳）

目 標 虫歯のない子どもを増やそう

行動目標 甘味の適正摂取を心がけ、食べたらみがくを実践し、歯垢の取れる仕上げみがきを行う

取り組み

住民	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたらみがくを習慣づける ・仕上げみがきの必要性和正しいブラッシング方法を理解し、毎日歯垢が取れる仕上げみがきをする ・丈夫な歯の質を作るために、フッ化物塗布・洗口を利用する ・3食バランスよく食べる、よく噛んで食べる、おやつは1日2回の生活習慣が作れる ・定期的に歯科健診を受け、歯や歯茎の状態を知る
関係機関 ・ 子ども園	<ul style="list-style-type: none"> ・園での食後の歯みがきを継続して実施する ・年中からフッ化物洗口を実施する ・年2回歯科健診を実施する ・年少児～年長児までを対象にブラッシング指導を実施する ・園からのお便り等を通して情報発信をする
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児健診での歯科衛生士による個別のブラッシング指導を実施する ・こども園における歯科指導への専門職（歯科衛生士等）を派遣する ・歯科衛生士による正しいブラッシングの方法、甘味の適正摂取、フッ化物塗布・洗口による歯質強化についての指導を実施する ・歯科健診、フッ化物塗布を実施する ・1歳児から3歳6か月児まで6ヶ月に1回フッ化物塗布の機会を設ける ・こども園でのフッ化物洗口が円滑に実施できるように支援する ・フッ化物塗布・洗口の必要性和安全性について情報提供する ・栄養・甘味の指導や生活習慣の改善指導を実施する

指標と目標値

指標	区分	現状値	2032年 目標値
むし歯のある子どもの割合 (%)	3歳児	7.5	7.0
	5歳児	22.92	21.0
毎回仕上げ磨きをする保護者の割合 (%)	3歳児	97.0	100
5歳児の一人平均むし歯本数		1.31本	1本以下
1歳半でおやつの内容が良好の子 (%)		87.0	96.0
フッ化物塗布率 (%)	1歳児	100	100
フッ化物洗口実施率 (%)	保育園	94.6	97.0
2歳児で3食バランスよく食べる子の割合 (%)		77.5	85.0
3歳児でよく噛んで食べる子の割合 (%)		85.0	94.0
3歳児でおやつの回数が1日3回以上の子の割合 (%)		0.0	0.0

2 ライフステージ 学童・思春期（6歳～18歳）

目 標 むし歯・歯肉炎をつくらないようにしよう

行動目標 歯垢のとれるブラッシング方法を身につけて、習慣化する

取り組み

住民	<ul style="list-style-type: none"> ・むし歯や歯周病の原因を理解し、正しいブラッシングの方法を身につけ、食べたらみがくの行動を習慣化する ・歯ブラシだけでなく歯間清掃用具の役目を理解し、活用する ・丈夫な歯の質を作るために、フッ化物洗口を利用する ・定期的に歯科健診を受け、歯や歯ぐきの状態を知る ・むし歯ができたり、歯肉炎や歯石などが見つかった場合は、早めに歯科受診し、治療や指導を受ける ・甘味の適正摂取（時間・回数・内容等）に努める ・保護者：仕上げみがきの必要性を理解し、小学校4年生まで仕上げみがきを行う
関係機関 ・ 小中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の歯科健診を実施し、むし歯や歯肉炎の早期発見に努め、要治療者への受診勧奨を実施する ・フッ化物洗口を実施する ・給食後の歯みがきを推進する ・学校での様々な機会を活用し、正しい生活習慣や歯みがき習慣について繰り返し啓発する
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・学校でのフッ化物洗口が円滑に実施できるように支援する ・学校における歯科指導への専門職（歯科衛生士等）を派遣する ・フッ化物の効果・安全性について情報提供する

指標と目標値

指標	区分	現状値	2032年 目標値
歯間清掃用具を使っている割合（％）	学童	58.7	67.0
	思春期	43.8	46.0
朝食後の歯みがきをしている人の割合（％）	学童	80.4	88.0
	思春期	79.6	88.0
昼食後の歯みがきをしている人の割合（％）	学童	80.4	88.0
	思春期	69.9	77.0
夕食後の歯みがきをしている人の割合（％）	学童	37.0	41.0
	思春期	31.9	35.0
仕上げ磨きを行っている親の割合（％）	小学校低学年	71.0	78.0
むし歯罹患率（％）	12歳児	22.5	20.0 未満
一人平均むし歯本数（本）	12歳児	0.40	0

3 ライフステージ 妊産婦

目 標 生まれてくる子どもの歯をむし歯から守ろう

行動目標 家族と一緒に口のお口の健康を守る

取り組み

住民	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期に自分の口の中を観察する習慣をもつ ・妊娠による生活習慣や生理的变化により、むし歯や歯周病等のリスクが高くなることを理解する ・妊婦歯科健診を受け、専門的なお口の清掃やセルフケアの指導を受ける ・産後、生まれてくる子どもにミュータンス菌が移らないように妊娠時から歯ブラシ以外に歯間清掃用具なども使った口腔ケアを行う ・むし歯や歯周疾患予防について情報を収集する
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を持つ妊産婦でも、歯科受診をしやすい環境をつくる
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳交付時に妊婦歯科健診受診券を発行する ・妊娠中の歯みがきや歯科受診について情報提供する ・4ヶ月児健診時に歯科衛生士によるブラッシング指導を実施する

指標と目標値

指標	現状値	2032年 目標値
妊婦歯科健診を受ける人の割合 (%)	29.7	33.0
産後4カ月時の歯間清掃用具の使用割合 (%)	64.0	70.4
産後4カ月時の鏡を使って歯や歯ぐきの状態を観察する人の割合 (%)	77.0	84.7
産後10カ月時の定期的に歯科受診をする人の割合 (%)	13.0	14.3

4 ライフステージ 青壮年期（19～64歳）

目 標 自分の歯を守り、むし歯、歯周病を減らそう

行動目標 口腔に関心を持ち、歯科健診を受け、口腔ケアの技を身につける

取り組み

住民	<ul style="list-style-type: none"> ・歯・口腔の健康が全身の健康に大きな影響を与えることについて理解し、口腔ケアに関心を持ち、意識的に口の中を見る習慣をつける ・食べたら歯をみがき、歯間清掃用具も使用する ・「規則正しい生活」「間食を減らす」「一口 30 回よく噛む」などの生活習慣を実践し、大人のむし歯をつくらない ・かかりつけ歯科医院を持ち定期的に口腔チェックを受ける ・年 1 回は歯科健診を受け、自分の歯や歯茎の状態を把握でき、適切な治療を受ける ・たばこと歯周疾患との関連について理解し、禁煙する
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・職場で歯科受診しやすい環境を作る ・職域健診に合わせて歯科健診が受けられる環境を作る
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・歯や口腔の健康のために必要な個人の行動変容を促進するために効果的な情報提供等を行い、歯科口腔保健に関する普及啓発を図る ・健全な歯・口腔の維持、歯の喪失防止を図るため、知識の普及啓発、歯科保健指導、生活改善の支援を行う。歯周病予防への関心を高めるための普及啓発活動を推進する ・定期的な歯科医による歯科口腔管理を支援する環境づくりを行う ・食生活改善推進員や母子保健推進員などの地区組織に対し、健口づくり担い手として育成する ・節目年齢などに無料歯科健診クーポンを発行し歯科健診の受診促進を図り、受診しやすい環境を推進していく

指標と目標値

指標	現状値	2032 年目標値
年に 1 回は歯科健診を受ける人の割合 (%)	35.2	39.0
成人歯科健診受診率 (%)	13.6	15.0
歯間清掃用具を使っている人の割合 (%)	61.9	68.0
成人歯科健診券を利用する人の割合 (%)	13.6	15.0
朝食後に歯みがきをする人の割合 (%)	65.0	72.0
昼食後に歯みがきをする人の割合 (%)	36.9	41.0
夕食後に歯みがきをする人の割合 (%)	24.8	27.0
喫煙習慣がある人の割合 (%)	17.9	16.0

5 ライフステージ 高齢期 (65歳～)

目 標 自分の歯を残し、おいしく食べよう

行動目標 定期的に歯（口腔）をチェックし、口腔ケアをつづける

取り組み

住民	<ul style="list-style-type: none"> ・歯や口腔の健康が全身の健康や認知症予防などに影響すること、治療によって口腔の状態が改善する可能性があるなど、歯科口腔保健に関する正しい情報を入手する ・口腔の状態に応じた適切なブラッシングや歯間清掃用具の使い方を知り、活用する ・かかりつけ歯科医院を持ち定期的に口腔チェックを受ける ・咀嚼や飲み込みなどに関係する筋力を維持するために口や舌の体操の必要性和その方法がわかり、実践し、誤嚥性肺炎を防ぐ ・入れ歯（義歯）のメリットを理解し、入れ歯のトラブルは早めに歯科医院を受診し解決する
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・歯科医院で個別に歯間清掃用具や入れ歯の取り扱いについて指導する ・歯科医院から、歯や口の困りごとがない時も受診するように働きかけをする
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・広報や高齢者の集まる場等に出向いて、歯や口の健康が全身の健康に影響することを情報提供していく ・高齢者の集まる場を利用して、口腔ケアや口腔体操のやり方について啓発する機会を作る ・「通いの場」において口腔機能向上を目的とした活動の実施を推進する

指標と目標値

指標	現状値	2032年 目標値
1年に1回、歯科健診を受けている割合 (%)	38.6	42.0
成人歯科健診受診率 (%)	10.2	11.0
歯間清掃用具を使っている割合 (%)	56.2	62.0
朝食後の歯みがきをしている人の割合 (%)	62.5	69.0
昼食後の歯みがきをしている人の割合 (%)	25.9	28.0
夕食後の歯みがきをしている人の割合 (%)	35.2	39.0
総入れ歯の人の割合 (%)	10.1	9.0
半年前に比べて硬いものが食べられなくなった人の割合 (%)	34.2	31.0

6 ライフステージ 要介護者・障がい者等

目 標 口の中をきれいに保とう

行動目標 口腔ケアに関心を持つ

取り組み

住民	<ul style="list-style-type: none"> ・障がいや介護が必要な状態になっても、口腔ケアの重要性を理解し、正しい口腔ケアの方法を知る ・咀嚼や飲み込みなどに関係する筋力を維持するために、家族やサービス担当者の支援を受けながら、お口のケアを毎日行う ・介護者は、障がい者や要介護者の口腔ケアを支援する ・サービス利用時に適切な口腔ケアを受ける ・かかりつけ歯科医院を持ち定期的に口腔チェックを受ける ・受診困難な方は、訪問歯科健診（県の事業）を活用する
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問歯科診療など歯科受診しやすい体制づくりを推進する ・ケアマネージャーや介護施設、福祉施設、ヘルパー事業所など介護職員が正しい口腔ケアの方法や重要性を理解する ・介護職員から本人や家族へ口腔ケアの方法や重要性について普及啓発する ・ケアプランに口腔ケアに関する内容を盛り込む
行政	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアの重要性について普及啓発を行う ・障がい者や要介護者が歯科健診や指導が受けられる体制をつくる ・ケアマネージャーや介護施設、福祉施設、ヘルパー事業所など介護職員の研修の機会をつくる ・介護職員向けの口腔ケアの啓発資料を作成する ・関係機関との連携体制を構築する

指標と目標値

指標	現状値	2032年 目標値
定期的に歯科健診を受けている人の割合(%)	16.0	17.6
定期的に口腔ケアをしている人の割合(%)	76.0	83.6
お口の体操をしている人の割合(%)	47.0	51.7
介護職員向けの口腔ケア研修会の参加者数（延人数）	24	70

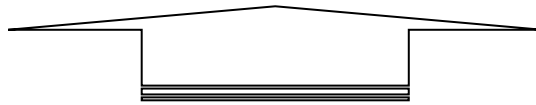
歯科保健計画推進に関わる機関・組織・団体

「湯沢町歯科保健計画」は「湯沢町ファミリー健康プラン」の部門別計画として一体のものであることから、湯沢町ファミリー健康プラン推進委員会と連動して推進してきました。

10年間の取組を通じて、住民一人ひとりの努力とそれを支援していく地域資源が連携し推進していく体制が整備されつつありますが、引き続き関係機関・団体が同じ目標と意識を共有し、自分たちができることを再確認しながら歯科保健を推進していきます。

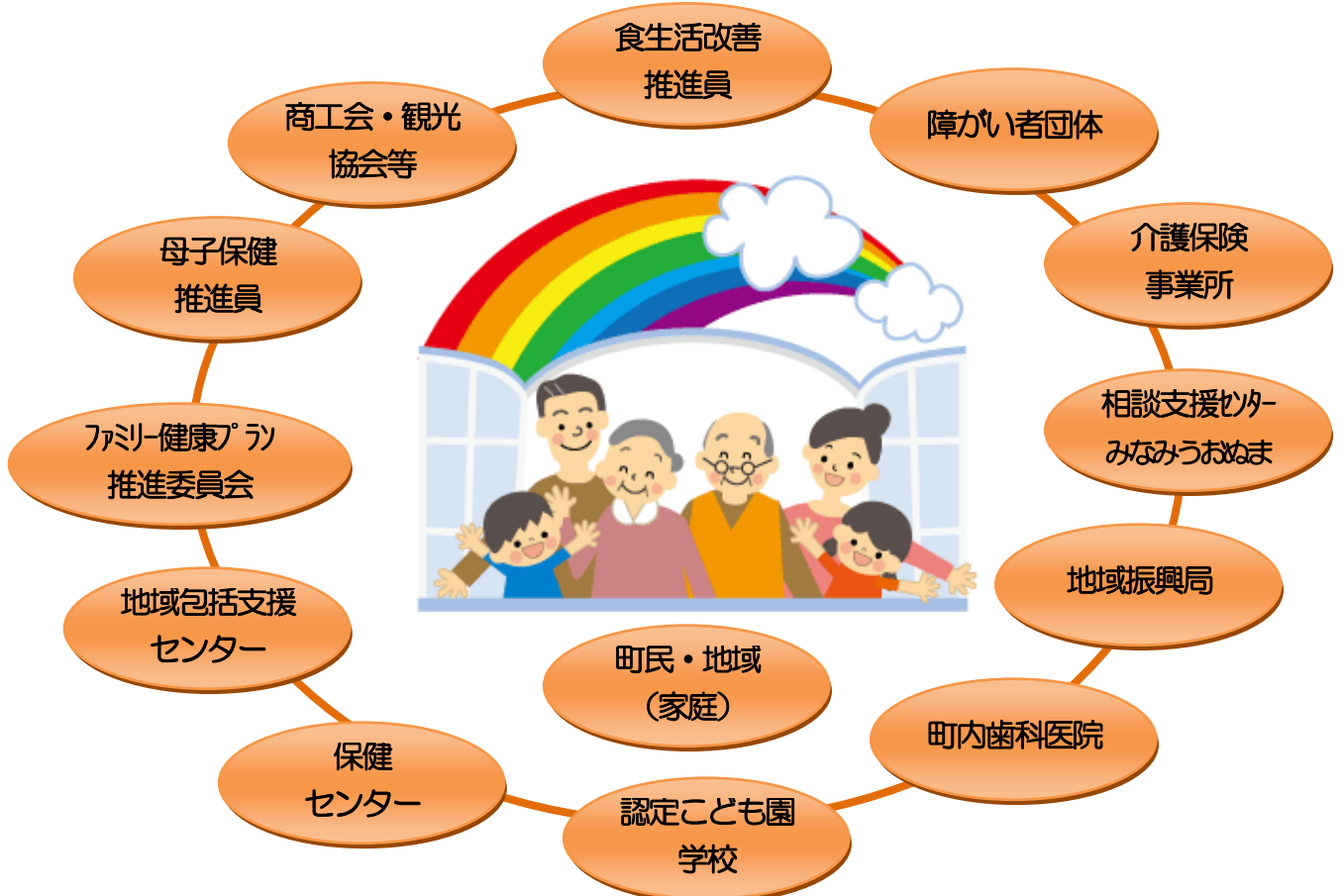
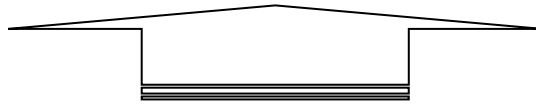
湯沢町ファミリー健康プランメインスローガン

自然を大事に人にやさしいふれあいのある元気な町



湯沢町歯科保健のスローガン

何でもおいしく食べられ、キラリと光る笑顔



湯沢町歯科保健計画最終評価の経過及び委員名簿

1 最終評価の経過

	内 容
令和4年5月	第2次湯沢町ファミリー健康プラン最終評価実態調査
令和4年10月5日	第1回ファミリー健康プラン推進委員会
令和4年12月20日	第2回ファミリー健康プラン推進委員会
令和5年3月6日	第3回ファミリー健康プラン推進委員会

2 ファミリー健康プラン推進委員会 名簿

* 委嘱期間: R3. 7. 1 ~ R5. 6. 30

		氏 名	団 体 名 等
1	知識経験を有する者	清 水 洋 子	東京女子医科大学地域看護学 教授
2	住民の代表者	大 津 孝 一	
3		森 下 律 子	
4		高 橋 圭 子	
5		内 野 悦 子	
6		大 島 れ い 子	
		岩 崎 裕 一	
7		医療関係団体の代表者	吉 村 優 里
8	笠 原 浩 介		湯沢町歯科医師会
9	高 橋 桜 子		町内調剤薬局薬剤師
11		関 明 美	食生活改善推進協議会
12		南 雲 礼 子	母子保健推進協議会
13		角 谷 洋	湯沢町社会福祉協議会
14		南 雲 節 夫	民生委員児童委員協議会
15		高 井 良 一	湯沢町商工会
16		高 橋 は る み	湯沢町商工会女性部
17		関 京 子	湯沢町ボランティア連絡協議会
18		天 城 悟	湯沢町総合型地域スポーツクラブ
19	行政機関及び学校の職員	山 本 平 生	湯沢学園 責任校長
20		中 俣 時 枝	湯沢学園 養護教諭
21		青 木 真 由 美	南魚沼地域振興局 健康福祉環境部 地域保健課
22		中 波 政 志	湯沢町副町長
23		岡 村 秀 一	教育課 管理指導主事
24		平 賀 菜 津 子	子育て支援課 主任保健師
25		阪 上 恵 美 子	子育て支援課 認定こども園
26		森 下 亮	教育課 教育係
27		笛 田 利 広	観光商工課 観光商工係長
28		佐 藤 高 明	町民課 国保給付係長

	研究協力者	柴 田 健 雄	東海大学健康学部
--	-------	---------	----------